

## ぶどうのチャバネアオカメムシ（新寄主）、ブチヒゲカメムシ（新寄主）

令和5年8月中旬、中央農業試験場（長沼町）の醸造用ぶどうにおいて、肥大期の果実に大型のカメムシ類成虫が多飛来し、果実を吸汁する様子が認められた。被害果は口針の差し込まれた箇所に黒点を生じ、周辺が変色・陥没した。その後は腐敗するか、腐敗を免れ収穫に至った果実でも生育の遅延に起因すると思われる小粒化や糖度低下が認められ、収量や醸造に影響する恐れもあると考えられた。園地で確認された虫種はチャバネアオカメムシ *Plautia stali* Scott 及びブチヒゲカメムシ *Dolycoris baccarum* (Linnaeus) であった。被害果では酸性フクシン染色により口針鞘が確認され、チャバネアオカメムシについては、接種試験で被害を再現した。また、空知及び後志地方の一般園においても、本年8月以降に同様の被害発生が確認されている。両種はいずれも広範に加害報告があるが、北海道においては、チャバネアオカメムシはリンゴ及びオウトウ、ブチヒゲカメムシは水稲、大豆、小豆・いんげんまめ及びハスカップで報告があるのみで、ブドウにおける被害報告は初めてである。いずれの種も北海道においては、年1化であると考えられ、ぶどう果実に対する加害は新成虫によるものと推測される。

（中央農試）



左：チャバネアオカメムシ、右：ブチヒゲカメムシ（中央農試 下間 原図）